

一般財団法人相双未来基金 定款

前 文

「一般財団法人相双未来基金」は、東日本大震災・津波・原発事故の多重被害を受けた福島県相双地域が、子供の未来を守りつつ、地域が誇りを持って復興するのを支えるために設立される。

喫緊の課題は、大震災後3年を経ても一向に改善されない、小児・周産期医療体制を確保することにある。福島県相双地域の小児・周産期医療については、以前から充実していたわけではないが、震災後に半数以上の産科医・小児科医が様々な理由で診療をやめ、今や残った少数の医療人たちが、骨身を削って日々の診療を支えている。

福島県の人口当たり産科医・小児科医数は全国平均よりはるかに少なく、中通り・いわき・会津の各地方を支えるため既に全力を尽くしている。このうえ相双地域を支えるまでの余裕はとてもない。福島県立医科大学は80人だった入学定員を130人に増員し、教育に心血を注ぎ、福島県の医療を支える若手医師たちの育成を図っている。10年後には、その成果が表れ、少しずつ産科医・小児科医不足は解消していくかもしれない。しかし、現場はその10年を待てる状況にない。

毎日のように子供が生まれているのに、産科医・小児科医が圧倒的に足りない。

この状況を打破するには全国・全世界からの英知と人材を結集するしかない。

「一般財団法人相双未来基金」は、「病気の時だけ」子供を支えるのではなく、「病気であっても、そうでない時も」子供の成長を見守り支えることで、従来の「病院」の枠を超え、子供の成長・人づくり・街づくり、そして地域の誇りの再生・発展を目指したい。

病院設立と、その安定的な診療維持を図るのはもちろんであるが、単に「医療」の枠をこえて、子供の身体・精神の育成、文化の醸成にも積極的に関わる。相双地域を中心とした福島県が、真の意味で震災・津波・原発事故を乗り越えていく一助になることを誓いつつ、「一般財団法人相双未来基金」を設立する。

平成26年10月1日

設立者 河 村 真